

6.8 緊急 国会要請行動 + 連続大集会

2010年6月8日、障害者自立支援法「改正」法案の廃案を求める「緊急国会要請行動 + 連続大集会」が開催されました。一日の様子を報告します。

10:00 参加者打ち合わせ



要請行動に向かう人が部屋いっぱいになりました。



聴覚障害関係は、右前方を陣取って(?)、久松さん(ろうあ連盟事務局長)の怒りのあいさつを聞きました。

久松さんの後方が藤井さん(推進会議の議長代理を務めていらっしゃいます)。3つの問題点の説明が分かりやすく、今回の行動の意義を確認することができました。

10:45 ころから 国会要請行動

国会議員(約500人)の部屋を36のグループに分かれての要請行動です。

全日本ろうあ連盟関係は7つのグループに分かれて訪問しました。ほとんどの議員が不在で秘書への言付けの形での要請になりました。私のグループでは小池百合子(自民党)議員1人に会いましたが、出がけだったためか立ち話で、とにかく資料を読ませていただきます、と足早に出て行かれました。また、鳩山由紀夫前総理にも面談を申し入れましたが、受付段階で、本人不在であることと、訪問そのものを断られました。(そんなものなんだろうか・・・)



全通研の「抗議声明」と「抗議メッセージ」は、当初は全議員に渡す方向で申し入れていましたが、手続的にできないということになり、ろうあ連盟関係の訪問グループの資料の中に入れてもらいました。約 100 名の議員に渡ったこととなります（成果 1）。

追記：全通研会員で、当日朝に、家族ぐるみで来られた方がいらっしゃいました。久松さんが、子どもに親のこのような姿を見せることはすばらしい と、ことばをかけていたのが印象的でした。

13:00 6.8 緊急連続大集会憲政記念館

500 人弱の定員という会館に立ち見が入るほどでした。急遽の開催で、会場把握が困難だったようです。ここに入らなかった人は参議院会館前にいて、1000 枚準備したパンフがなくなったとの主催者の発表でした。



石野全日本ろうあ連盟理事長が開会宣言をします。ろうあ者大会での「緊急決議」を読み上げました。

全国の前訴訟原告の方々14人から「怒り」と万一通ってしまうようなことがあれば再び闘うと、強い意志が表明されました。また前訴訟の弁護団を代表して竹下弁護士からは、こんなところで同窓会ができるとは思っても寄らなかった。まだ和解して半年もたっていないのに と、発言していました。



全日本ろうあ連盟が「コミュニケーション支援について」報告をしました。

松本理事の報告持ち時間 5 分中、1 分を全通研の報告にあてていただきました。

伊藤事務局長が舞台上上がり、ろうあ連盟とともにコミュニケーション支援に取り組み、全国の仲間とともにこの法案に対して怒りをもち、皆さんと共闘していくことと表明しました。そして、全国の支部から寄せられた「連帯メッセージ」を主催者代表として勝又氏に手渡しました。勝又氏はフラワーに向かって「受け取った」と高く見せていただきました。(成果 2)



最後に、集会アピール、シュプレヒコールで、黄色の「怒」「廃案」と書いた紙を掲げて意思表示しました。



15:30 国会前大集会

国会前に移動。長い人並みが道路に沿って歩くと思いきや、その場で立ち止まってしまいました。なんと路上での集会でした。



路上集会の中央舞台。各団体、議員らの呼びかけがありました。この時点で、主催者から 2000 人の参加があったと発表がありました。



路上集会は長い列のため、後ろの方はマイクも入りにくく、聴覚障害者関係で勝手に集会を開いています。参加者からそれぞれに意志表明したり、本路上集会に参加された議員を捕まえてあいさつをもらったりしていました。



(成果 3) 午前中に、全議員に配布する予定で印刷していた全通研の「声明文」と「抗議メッセージ」を、路上参加者の皆さんに配布しました。配布は全通研から参加した皆さんで手分けして、約 900 部を配りました。「私もちょうだい」と手を出される方もいて、大集会の場で伊藤事務局長が報告し、こうやって全通研の意思を皆さんに伝えられたこと、この集会の大きな成果です。

急なお願いにもかかわらず、積極的に配布に協力してくださった会員の皆さんに心から感謝します。

また、要請行動、大集会等々の各会場で手話通訳を担当してくださった関東ブロックの皆さんに感謝します。集会事務局から依頼があって、関東ブロックの事務局に依頼したのが 4 日の金曜日でした。にもかかわらず、体制を組んでいただき、当日の手配は完璧でした。

この大集会の開催が呼びかけられたのが、6 月 2 日。なんと 1 週間で 2000 人を動員し、成功を成し遂げた障害者団体の力に感動しました。それを受けて、全国の支部から「連帯メッセージ」「抗議メッセージ」が寄せられ、議員や集会参加者に届けられたこと。そして手話通訳の動員を手配してくださった関東ブロック。全通研の組織に感動しました。